

2021年度 ハラスメント防止委員会企画シンポジウム

アカデミック・ハラスメントの構造 —指導？ハラスメント？—

企画	：日本教育心理学会 ハラスメント防止委員会
話題提供	：北仲千里（広島大学）
話題提供	：横山美栄子（広島大学）
指定討論	：金子雅臣（職場のハラスメント研究所）
司会	：進藤聰彦（放送大学）

企画趣旨：

委員会では、俯瞰的かつ体系的にハラスメントの問題を眺めてみることが大切であろうということから、アカデミック・ハラスメントを専門に研究され、アカデミック・ハラスメントについての書籍として定評のある『アカデミック・ハラスメントの解決—大学の常識を問い合わせ直す』（北仲・横山, 2017）の著者である広島大学ハラスメント相談室の北仲千里氏と横山美栄子氏を話題提供者に迎えて、アカデミック・ハラスメントについて学ぶこととした。同室は全国の国立大学で初めて専任教員が配置され、我が国のアカデミック・ハラスメントの取り組みや研究で先導的な役割を果たしている。

大学でのハラスメントでしばしば問題になるのは、その行為が指導なのか、ハラスメントなのかという問題である。教員が学生に期待して出した課題が、学生側には過度な負担として感じられることがある。学生の自律性を尊重した学生の自由度の高い指導が学生にとっては指導放棄と受け取られかねないことも考えられる。こうした問題を含み、北仲氏からはアカデミック・ハラスメントを生む組織の体制（システム）について、横山氏からはアカデミック・ハラスメントが起きたときに、解決に向けてどう対応したらいいのかについて話題提供をお願いした。